

SOLAN IMPACT

算数での学びについて

5年生がスタートして1ヶ月が経ちました。

今回は、算数において子どもたちがどのような学びを進めているのかをご紹介します。

右のスライドは、年度当初の授業オリエンテーションで、子どもたちに「算数で身につけてほしい力」について説明した際に用いたものです。算数では、「公式を覚えること」や「問題を解けるようになること」だけを目的としていません。

私たちは、子どもたちが算数の学習を通して、様々な事象を算数の視点から捉え、図や表、式などを活用しながら、根拠に基づいた筋道を立てて説明できる力を育ててほしいと考えています。

SOLANの学びには、個人探究やプロジェクト学習など、子どもたちが課題に対して仮説を立て、検証する機会が多くあります。そのような場面で、データを整理・分析するなど、これまでの算数の学びを主体的に活用できるようになることを目指しています。

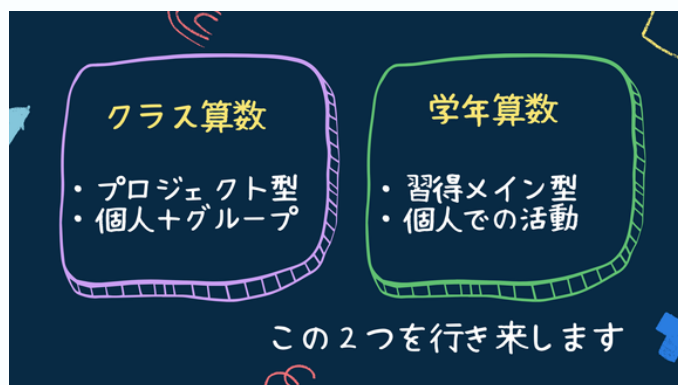
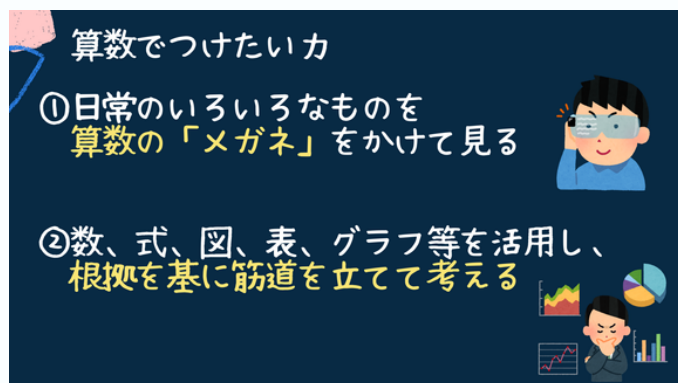
このような学びの実現に向けて、5年生の算数では、学びのテーマを設定し、ゴールを目指して探究を深める「クラス算数」と、知識・技能の習得を重点的に行う「学年算数」という2つの側面から学習を進めています。

「クラス算数」では、子どもたちが主体的に課題に取り組み、深い学びへと繋げられるように、テーマを設定したプロジェクト学習を展開します。

一方、「学年算数」では、計算技能の習得など、子ども一人ひとりの学習状況に応じたきめ細やかな学びの実現を図ります。

また、基礎学力の確実な定着に向けて、昨年度と同様に「小学問題集コア（好学出版）」を配布し、授業内での学習内容の定着に活用しています。

さらに、先日行われた懇談会でもお伝えしましたドリルパークについても、学習内容の理解を深めるために、復習問題を配信し、必要に応じて子どもたちが自主的に取り組めるようにしています



「クラス算数」では、子どもたちが主体的に探究を深める学びを展開しています。こちらは、先日まで行われていた「体積」の単元での学びの様子です。

子どもたちは「ちびっこアルキメデスになろう！体積のふしぎとクイズづくり」というテーマのもと、体積の学びを進めていました。

「教室の体積はどれくらいだろう？」「水槽に物を沈めたら、どれだけ水位が上がるかな？」子どもたちは、身の回りのものを活用した体験的な活動を通して、体積という概念を肌で感じ取りました。

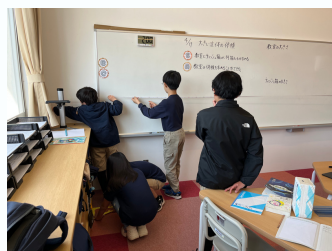
体積の求め方をただ覚えるのではなく、実際に手を動かし、試行錯誤する中で、その意味を深く理解していました。

そして、学びの集大成として、子どもたちは体積に関するオリジナルクイズ作りに挑戦しました。

「どうすれば友達が楽しく考えられるクイズになるかな？」「どんなひっかけ問題を入れたら面白いかな？」

互いにアイデアを出し合い、思考を巡らせる中で、体積についての理解をさらに深めていました。

この一連の学びを通して、子どもたちは単なる計算問題に取り組むだけでなく、体験を通して体積の本質に触れ、主体的に学びを創造する喜びを感じていたと思います。



家庭学習について

先日の二者懇談では、家庭学習について多くのご相談をいただきました。

SOLANでは、「自立し、自律した学習者の育成」を目指し、子どもたちが自ら考え、主体的に学ぶ力を育むことを重視しております。この目標を達成するためには、学校での学びはもちろんのこと、家庭学習を含む自主学習が非常に大切だと考えております。

学校においては、日々の授業を通して家庭学習や自主学習の重要性を丁寧に伝え、子どもたち自身が課題を見つけ、主体的に取り組む意欲を高める支援を行っております。

具体的には、算数の授業の中で課題を希望する子どもや、教師との相談を通して課題を設定した子どもには、個別の課題を提供するなど、自主的な学びを進める土台づくりを進めています。

この自主学習の取り組みをさらに充実させていくためには、学校だけでなくご家庭との連携が不可欠だと考えております。子どもたちが主体的に学ぶ意欲を育み、前向きに取り組めるよう、ご協力をお願いいたします。

自主学習について、何かご心配なことやご不明な点がございましたら、どうぞご遠慮なく学校にご連絡ください。



“Small Actions, Big Impact—Let’s Make a Difference!”

